

Economic Indicators

発表日：2020年7月7日(火)

景気動向指数(2020年5月)

～景気の谷は5月か。6月以降は持ち直し～

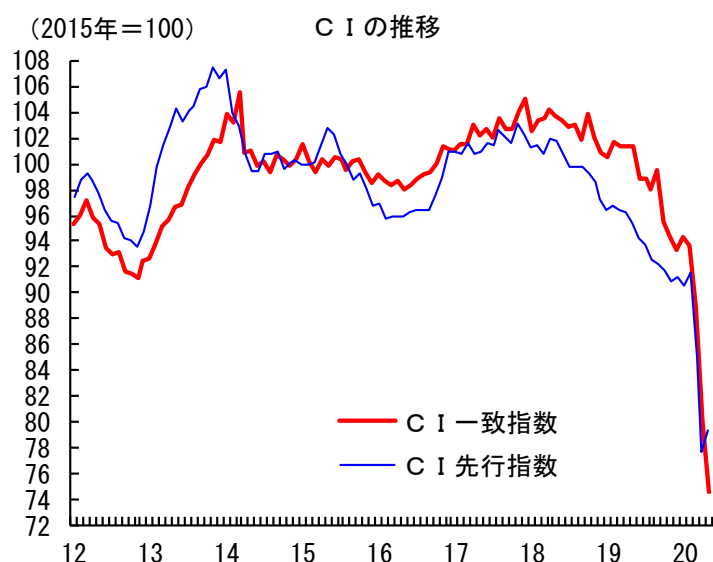
第一生命経済研究所 調査研究本部

経済調査部長・首席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

内閣府から公表された2020年5月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差▲5.5ポイントとなった。3月の▲4.9ポイント、4月の▲8.7ポイントに続いての大幅低下である。3ヶ月間の累積で▲19.1ポイントもの悪化であり、新型コロナウイルスによる経済への甚大な悪影響が確認できる。5月は、(月内に解除されたものの)緊急事態宣言延長により外出自粛や営業自粛が続いたことに加え、海外経済の急速な悪化に伴って輸出の大幅な減少が続いたこと等が響いている。内訳では、速報段階の7系列すべてでマイナス寄与と、全面的な落ち込みとなっている。

もっとも、こうした急激な落ち込みにはそろそろ歯止めがかかるだろう。緊急事態宣言解除後、営業再開や外出自粛の緩和等が進んでいることに加え、海外でもロックダウンが終了したことにより輸出も持ち直しが予想される。C I一致指数も5月でボトムをつける可能性が高い。もちろん先行きの新型コロナウイルスの感染動向次第ではあるが、仮に感染の再度の急拡大が回避され、今後も経済活動の再開が順調に進むのであれば、2018年10月を山とした景気後退局面は2020年5月で終わり、6月以降は景気拡張局面に転じる可能性が高いと思われる。

なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は5月も「悪化」となった。悪化の判断は19年8月以来10ヶ月連続となる。もっとも、仮に6月以降持ち直しが続けば、8月頃には「下げ止まり」への基調判断上方修正も視野に入ってくるだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

